

山梨県水産技術センター - 便り

新任のご挨拶 ~ 県内水産業の振興に向けて ~

山梨県水産技術センター所長 加藤 肇

この度の人事異動で、水産技術センターに勤務することになりました。日頃より、各漁協の皆さんや養殖業者の皆さんには、御協力いただき感謝申し上げます。

当センターは、冷水病フリーの魚苗生産や、カワウ対策のための調査、漁協の皆さんとの一斉駆除、ニジマスの効率的養殖技術の開発や新魚種の開発、クニマスの保全と養殖に向けた試験等、本県水産業の生産、指導、研究に係わる業務を行っています。

魚苗センターのころから、現場のニーズに沿って、課題解決のための試験研究、技術指導、魚苗の生産を行う、実践的な研究機関として活動してきました。

本県は、マグロは全国的でも1人あたり消費量が多い県ですが、実はニジマスの生産で全国3位であることは、一般県民にはあまり認識されていません。

この5年間で、農業現場では企業の農業参入や都会からの新規就農者が年々増加し、大きな変化をしております。水産業についても、クニマスの発見やニシキゴイの輸出の増加など新たな動きがあります。

水産の試験と併せて、全国に誇る品種の育成、普及、各漁協の支援を通じた地域振興等、幅広く本県水産業の振興に寄与するため職員一同頑張っていきますので、関係する皆様には今後も御指導、御協力をお願いします。

防疫について、もう一度考えてみませんか

主任研究員 名倉 盾

防疫は地味で退屈で地道な作業です。しかも、一瞬油断するとそこから疾病が侵入し、今までの努力が台無しになることすらあります。普段から努力していても病気が発生すると無力感に襲われがちですが、それ以上の被害を抑えるためにすぐに新たな防疫対策をする必要があります。

防疫というと、養殖ばかりに注目されがちです。しかし、河川に目を向けますと、今年度のアユ解禁前に冷水病が発生した河川がありました(山梨県産の冷水病フリー種苗のみを放流している河川での解禁前の冷水病発生は見られていません)現地調査の

過程で、放流の仕方など、いくつかの来季に向けた提案もさせていただきました。現在、冷水病の発生が確認されていない漁協でも、購入時に来歴カードをもらい冷水病の履歴を確認する、放流時の魚の取り扱いが丁寧に行い、水温合わせや傷をつけないような放流の方法をもう一度、検討することによって、冷水病の発生を防いだり、放流効果を高めたりすることができるかもしれません。また、冷水病の保菌が疑われる種苗は放流しないこと、何らかの理由で放流する場合には、最下流部に放流すること(下流に他漁協の漁場がある場合には疑わしい種苗は放流しないでください)などの対策をお願いします。

養殖の関係では、前号(N0.60)でもお知らせしましたが、改正された水産資源保護法と持続的養殖生産確保法が7月27日から施行されます。

対象となる病気や輸入・養殖しようとする魚種は以下のとおりです。

判らないこと、相談したいことがあれば、水産技術センターの各担当までお問い合わせください。

水産防疫の対象疾病と対象水産動物

	対象疾病	対象水産動物	
魚類	ウイルス性出血性敗血症 (IVa型を除く。)	さけ科魚類	
	*サケ科魚類のアルファウイルス感染症	さけ科魚類	
	流行性造血器壊死症	さけ科魚類	
	ピシリケッチア症	さけ科魚類	
	レッドマウス病	さけ科魚類、こい、きんぎょその他のふな属魚類、こくれん、はくれん、ないるていらびあ	
	*旋回病	さけ科魚類	
	コイ春ウイルス血症	こい、きんぎょその他のふな属魚類、こくれん、はくれん、あおうお、そうぎょ	
	コイヘルペスウイルス病	こい	
	*マダイのグルゲア症	まだい	
	イエローヘッド病	くるまえば科えび類、さくらえび科あきあみ属えび類、てながえび科えび類	
	*壊死性肝炎	くるまえば科えび類	
	タウラ症候群	くるまえば科えび類	
	伝染性皮下造血器壊死症	くるまえば科えび類	
	*急性肝臓壊死症	くるまえば、しろあしえび、うしえび、こうらいえび	
甲殻類	*伝染性筋壊死症	くるまえば科えび類：リトペネウス (<i>Litopenaeus</i>) 属、ペネウス (<i>Penaeus</i>) 属	
	バキュロウイルスペナエイ感染症	くるまえば科えび類	
	*エビの潜伏死病	くるまえば、しろあしえび、こうらいえび	
	*腮腺ウイルス病	くるまえば科えび類：くるまえば、ペネウス (<i>Penaeus</i>) 属、フェネロペネウス (<i>Fenneropenaeus</i>) 属	
	モノドン型バキュロウイルス感染症	くるまえば科えび類：ペネウス (<i>Penaeus</i>) 属、フェネロペネウス (<i>Fenneropenaeus</i>) 属、メリセルトゥス (<i>Melicertus</i>) 属、よしえび属	
	*アワビヘルペスウイルス感染症	とこぶし、ふくとこぶし	
	*アワビの細菌性膿瘍症	えぞあわび、くろあわび、まだかあわび、めがいがわび	
	貝類等	*カキヘルペスウイルス μ Var 感染症	まがき属かき類
		*パーキンサス・クワワディ感染症	ほたてがい
		*マボヤの被覆軟化症	まぼや

注) [*]は、平成28年の改正により新たに輸入防疫対象疾病及び特定疾病に指定された疾病

増殖技術講習会が開催されました

平成 28 年 7 月 8 日、水産会館において栃木県水産試験場の高木優也技師をお迎えして「栃木県におけるアユ漁業の現状と対策」というタイトルで講演をいただきました。

概要は以下のとおりです。

問題点

- ・河川環境の悪化 釣れなくなる 収入の減少
- 放流量の減少 さらに釣れなくなる
- ・釣れても日釣り券が売れない（遊漁者全体の減少？）

必要な対策

- ・放流事業の効率化、別の魚種による補てん、釣り人を呼び込む工夫
- ・同じ放流量（重さ）ならサイズが小型の方が数は多くなる。栃木県内で調査した所、5g サイズでの放流でも残存率は高い
- ・大河川より小河川の方が、放流効果が高い
- ・大河川での放流を行うなら漁場範囲を絞っての集中放流がよい
- ・情報発信をまめに行うことで釣り人を呼び寄せる。ブログやフェイスブックといったコストの低いインターネット系の情報を充実させることで釣り客を呼び込む

栃木県での事例紹介

- ・アユを集中放流した
 - ・蓄養放流した（定着率が向上した）
 - ・釣り堀等で放流費用を稼いだ
 - ・のぼり等で釣り場への案内を作った
- など、わかりやすく説明いただきました。



平成 28 年度の組織体制

平成 28 年 4 月 1 日付けの人事異動で、今年度の体制は次のとおりとなりました。

本 所（12 名）

所 長	加藤 肇
次 長	内藤 聡
研究管理幹	大浜 秀規：総括
主 幹	田邊 優子：総務
主任研究員	青柳 敏裕：増殖
主任研究員	名倉 盾：養殖
主任研究員	加地 弘一：養殖
研 究 員	芦澤 晃彦：増殖
主任技能員	大森 洋治
臨時職員	岩部 奈津美
臨時職員	小林 伝
臨時職員	望月 進

忍野支所（8 名）

支 所 長	岡崎 巧
研 究 員	三浦 正之：養殖
研 究 員	加地 奈々（育休）
研 究 員	小澤 諒：養殖
主任技能員	羽田 幸司
非常勤職員	宮内 聡
臨時職員	天野 元枝
臨時職員	渡邊 由美子

平成 28 年 7 月 19 日発行

本 所

〒400-0121 甲斐市牛匂 497
TEL 055-277-4758 FAX 055-277-3049
E-mail : suisan-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

支 所

〒401-0511 南都留郡忍野村忍草 3098-1
TEL 0555-84-2029 FAX 0555-84-3707
E-mail : suisan-osn@pref.yamanashi.lg.jp